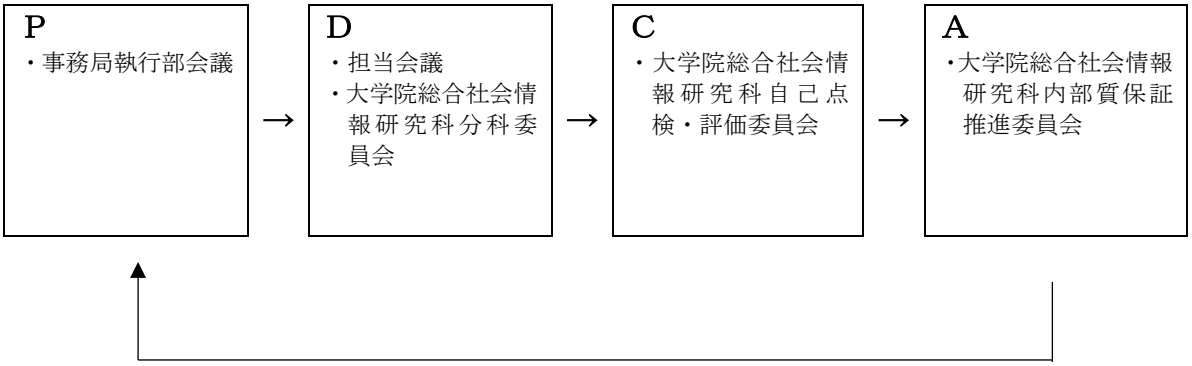
令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院総合社会情報研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会を設置し，内部質保証システムの適切性について検証し，改善・向上に取り組むこととしている。さらに，ＦＤ活動で実施内容の共有を行っている。

改善事項に挙げられた「研究指導計画の策定」において，諸会議・委員会にて現状の学位取得までのプロセスを再検証することで，研究指導計画として策定する旨，改善を図った。

大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会と大学院総合社会情報研究科内部質保証推進委員会については，現状全学自己点検・評価や認証評価等の改善における協議・審議機関として機能している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組

むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

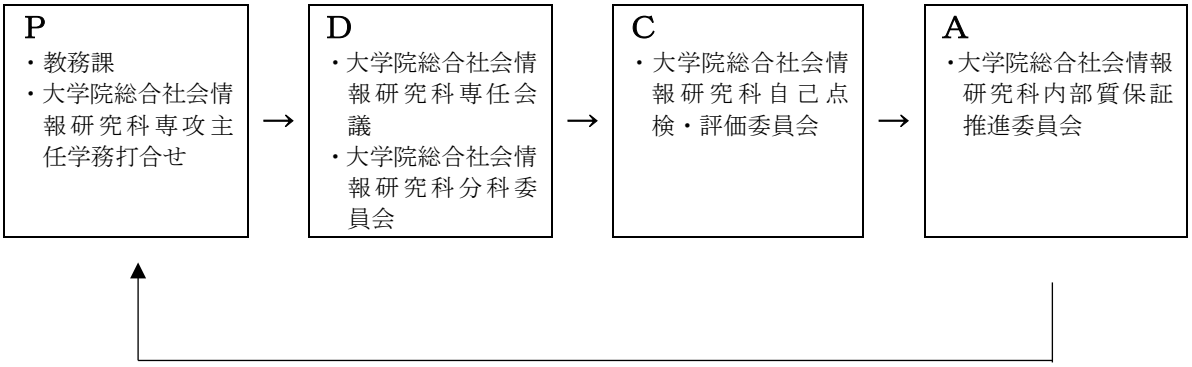
令和６年度大学評価（認証評価）結果基準４において，博士後期課程で教育課程の編成に関する基本的考え方を示していないとの提言が付されている。したがって，内部質保証体制を機能させ，整備した内部質保証体制の下，着実に取り組んでいくよう改善が求められる。

博士後期課程における教育課程の編成に基本的な考え方については，連動する博士前期課程の改組に関する進捗状況を考慮しつつ，大学院総合社会情報研究科分科委員会において令和９年４月１日までの改善を目指している。なお，改善に向けた検討に当たっては基準４と同様，通信教育部教務課より上程し，大学院総合社会情報研究科分科委員会において最終的な審議検討を行うことで内部質保証体制を機能させ，着実な取組を図るよう想定している。

事務局執行部会議及び担当会議・大学院総合社会情報研究科分科委員会において，協議・審議を行い，改善を行っていくとともに，大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会及び大学院総合社会情報研究科内部質保証推進委員会で実施した改善の検証に取り組んでいく。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院総合社会情報研究科では，教育研究組織に係る学科の新設や改組等について，教務課及び専攻主任学務打合せで計画を立案，その後必要と考えられた内容については，専任教員会議及び大学院総合社会情報研究科分科委員会で審議を行っている。

その後，必要に応じて大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会や大学院総合社会情報研究科内部質保証推進委員会において検証を行い，組織運営の改善・向上に繋げている。

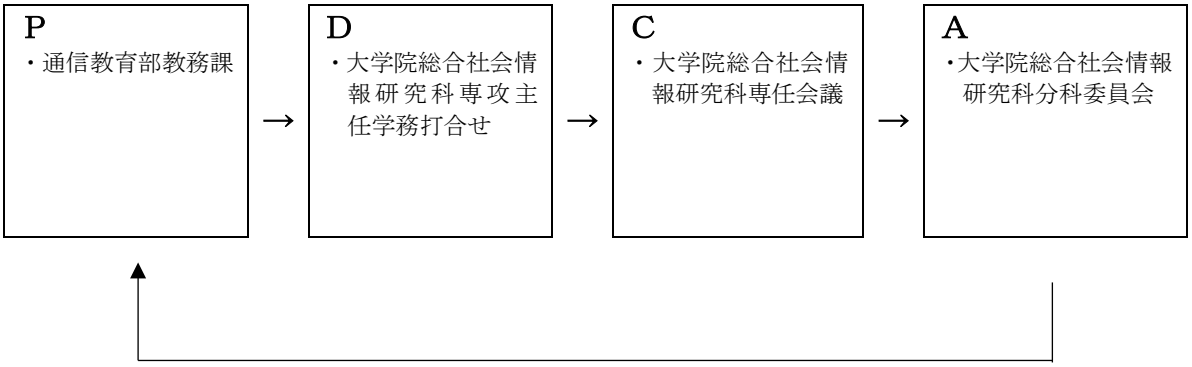
また，実際に大学院総合社会情報研究科分科委員会審議承認の下，博士前期課程において現行の３専攻を１専攻に統合する改組を令和９年度から実施できるよう図っており，現時点で文部科学省への事前相談を行う段階にある。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

大学院総合社会情報研究科専攻主任及び教務課による学務打合せ及び専任教員会議等において，日頃から教育課程及びその内容，教育方法等の適切性について検討及び改善等を行っている。点検項目や基準，周期等は，必要に応じて会議等にて判断し，実施できる体制を整えている。また，定量的な評価を得る機会として，年度末に各担当教員へ自身の担当科目に関する自己評価アンケートを実施するとともに，学生に対しても履修科目に関する授業評価アンケートを実施している。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

各専攻主任が中心となり専攻のカリキュラムを検証し，４専攻主任が集まる学務打合せにおいて研究科全体のカリキュラムについて検証している。令和８年度にカリキュラム改正が行われるため，現時点では具体的に修正を必要とする点は生じていないが，定期的に課程単位でのカリキュラム改正を行っており，平成29年，令和２年及び令和５年にその実績がある。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

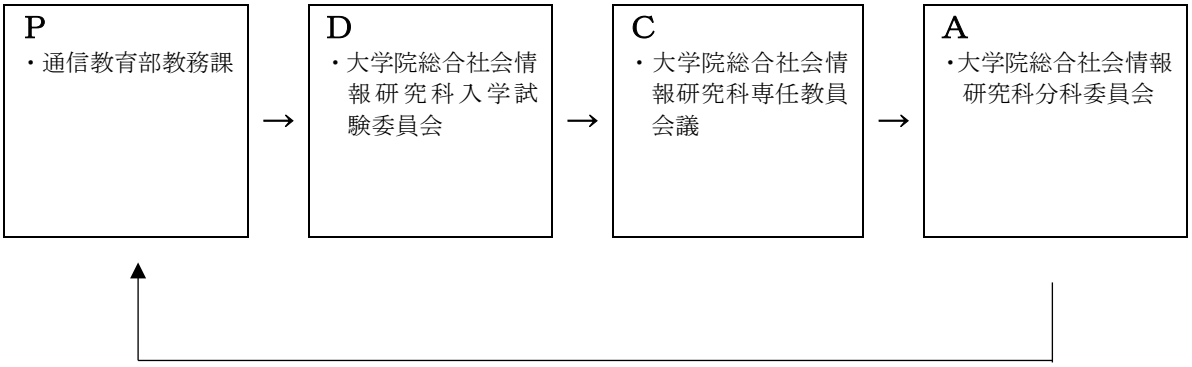
令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「教育課程の編成・実施方針について，総合社会情報研究科博士後期課程では，編成に関する基本的な考え方を示していない」と提言が付されているため，改善が求められる。

基準２―３の記載内容と同様，令和９年４月１日までの改善を目指し，大学院総合社会情報研究科分科委員会において検討を行う予定である。

博士後期課程における教育課程の編成に基本的な考え方については，連動する博士前期課程の改組に関する進捗状況を考慮しつつ教務課及び大学院総合社会情報研究科専攻主任学務打合せで改革原案を作成し，専任教員会議による検討を経た上で，最終的には大学院総合社会情報研究科分科委員会における審議・検討の下，令和９年４月１日までの改善を目指している。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生の受入れについては，入学試験委員会が管轄し，同委員会内で随時点検・評価を図っている。具体的には入学試験における受験科目について令和９年度より英語を除外し，より円滑な入学試験の実施を図った実例がある。

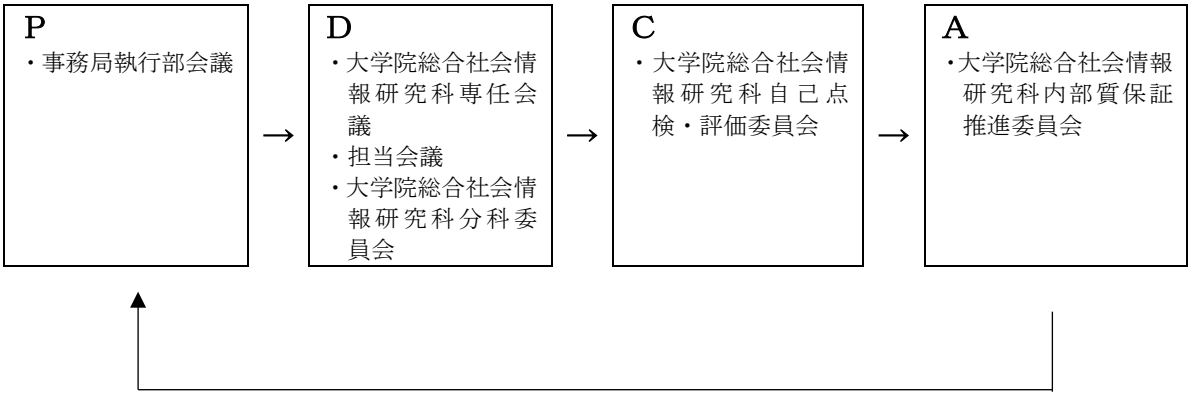
学生の受入れについては，入学試験委員会が管轄し，同委員会内で随時実務的な点検・評価を実施した上で，組織的な判断・決定が必要となる事例については，大学院総合社会情報研究科専任教員会議・大学院総合社会情報研究科分科委員会にて意見聴取及び審議を行っている。具体的には入学試験における受験科目について令和９年度より英語を除外し，より円滑な入学試験の実施を図った事例がある。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育研究組織の適切性の検証は，自己点検・評価の対象となるが，大学院総合社会情報研究科専任会議，担当会議及び大学院総合社会情報研究科大学院分科委員会で検証している。

教員組織の適切性の検証は，自己点検・評価の対象となるが，大学院総合社会情報研究科専任会議，担当会議及び大学院総合社会情報研究科分科委員会で検証している。

大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会と大学院総合社会情報研究科内部質保証推進委員会については，教員組織編制方針に基づいた計画や全学自己点検・評価，認証評価等における検証・改善を行う機関として機能している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

本記述では教職間の連携方法や協働の具体的成果（外部資金の採択実績，成果発信の改善例等）についての記述が確認できなかったため，改善が求められる。

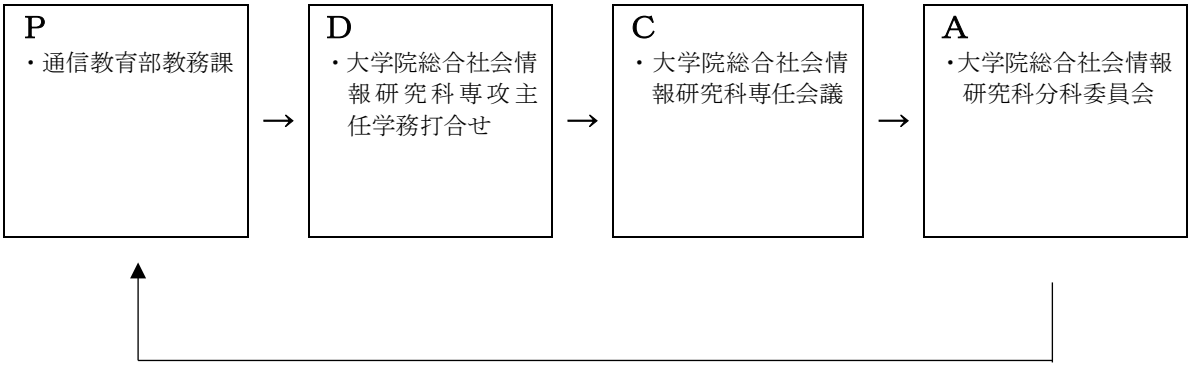
外部からの幅広い人材登用や多様性確保の観点では，公募の実施や候補者選定プロセスの透

明性確保が課題であり，改善が求められる。
　年齢構成の具体的な数値や分布状況及び過去の採用実績の傾向が示されておらず，取組の効果や改善状況を定量的に検証することは難しいため，課題であり，改善が求められる。
　具体的な男女比の現状データや過去の採用実績，偏り是正に向けた具体的手段についての記述が確認できなく，取組の実効性を判断するには情報が不十分であるため，改善が求められる。

　教員配置計画に基づき，長期的に専任教員数を管理し，定年退職を考慮した採用計画の下，担当会議を経て大学院総合社会情報研究科分科委員会で審議を行っており，一定の候補者選定プロセスの透明性は確保できている。一方で，近年公募を実施していないため，今後諸会議・委員会で検討を行っていく。
　また，年齢構成や男女比等については，ホームページにおける「教育情報」で公開を行っているものの，過去の採用実績は公開していない。こちらについても，今後諸会議・委員会で検討を行っていく。
　事務局執行部会議において教員組織の改善に向けた計画を立案後，大学院総合社会情報研究科専任会議・担当会議・大学院総合社会情報研究科分科委員会を経て実行し，大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会で点検・評価の上，大学院総合社会情報研究科内部質保証推進委員会に報告を行い，検証・改善を行う。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

通信教育部教務課で受け付けた学生からの支援希望については，４専攻主任が対応する学務打合せで情報を共有し，内容により科目担当教員・研究指導担当教員へ対応に関する依頼・伝達を行っている。また，組織的な対応が必要となる事例については，大学院総合社会情報研究科専任教員会議・大学院総合社会情報研究科分科委員会にて意見聴取及び審議を行い対応の方向性を確定させている。さらに，令和８年度博士後期課程入学試験においては，学習障がいを理由とした別室受験希望の申出があり，大学院総合社会情報研究科分科委員会審議承認の下，合理的な配慮により，別室受験対応を行った事例がある。

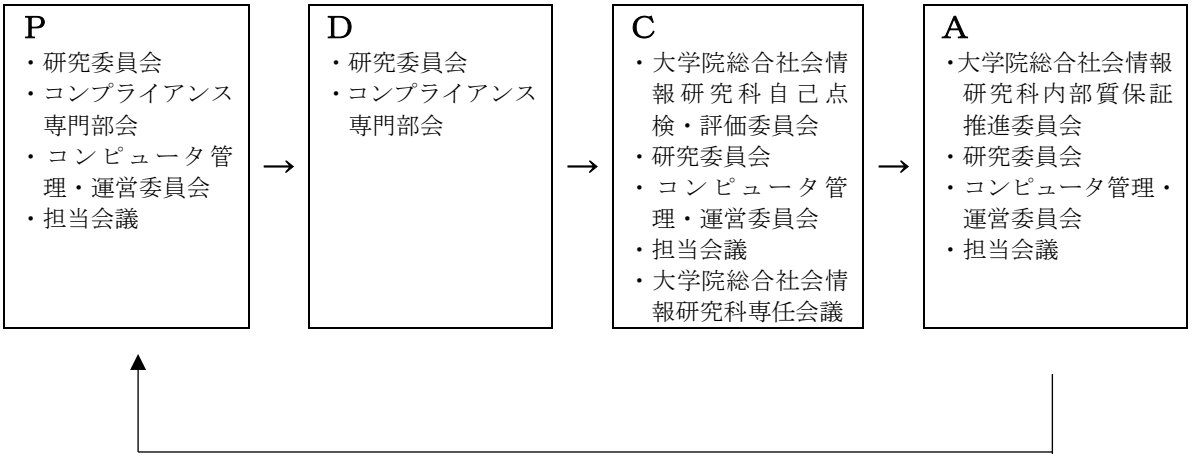
通信教育部教務課で受け付けた学生からの障がい等を理由にした学修支援に関する希望・要望については，４専攻主任が対応する学務打合せで情報を共有し，内容により科目担当教員・研究指導担当教員へ対応に関する依頼・伝達を行っている。また，組織的な対応が必要となる事例については，大学院総合社会情報研究科専任教員会議・大学院総合社会情報研究科分科委員会にて意見聴取及び審議を行い対応の方向性を確定させている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑩　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

研究等環境に関わる事項については，「教育研究等環境整備に関する方針」に基づき，研究委員会，研究委員会コンプライアンス専門部会，コンピュータ管理・運営委員会及び担当会議等が，随時，審議・計画・実行・点検を行っている。また，定期的に，大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会による点検が行われ，その結果を基に大学院総合社会情報研究科内部質保証推進委員会で検証を受けるというサイクルが確立されている。

これまで大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会及び大学院総合社会情報研究科内部質保証推進委員会による点検・評価・検証において，特に指摘事項はない。これは，各委員会組織が日頃から点検・評価・検証を行い，必要な改善を実行している成果と言える。

具体的な改善・向上を図った事例としては，コンピュータ管理・運営委員会では，各組織の共用パソコンの利用状況に鑑み，適切な情報管理及び情報倫理の遵守の視点から，個人情報保護や事故防止対策を強化する必要があると判断し，共用ＰＣに環境復元ソフト「V-Recover」を導入し，セキュリティを強化した。

また，研究委員会では，従来の個人研究費による研究活動支援に加えて，更なる支援の可能性を検討し，その結果，「通信教育部教育研究特別奨励金」を創設して，研究活動の充実を図っ

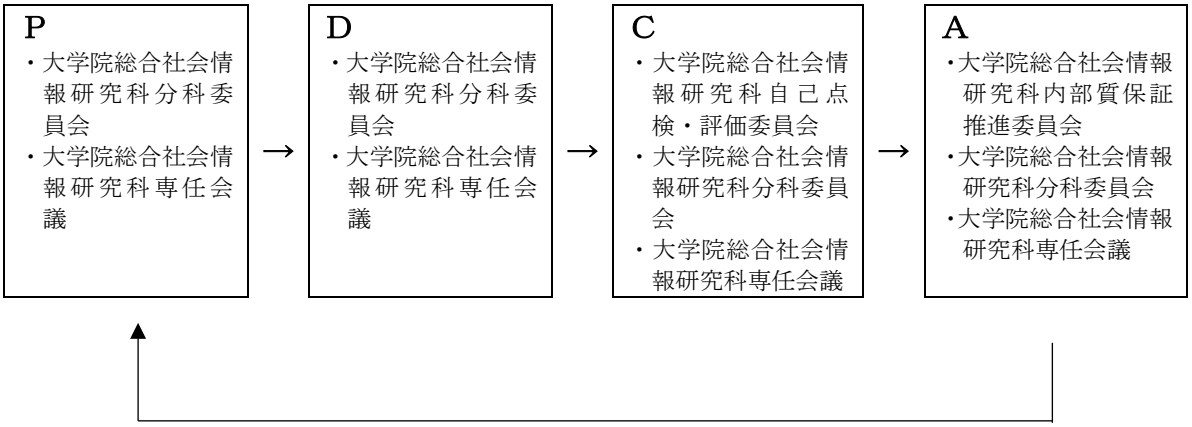
た。
　このように，各組織が計画と実行を繰り返しながら，定期的に点検・評価を行い，継続的な改善と向上に努めている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院総合社会情報研究科では，大学院総合社会情報研究科専任会議及び大学院総合社会情報研究科分科委員会を中心に，社会連携・社会貢献に関わる事項について計画を立て，実施，点検及び検証を行っている。主な社会貢献活動としては，電子紀要，電子マガジン及び公開講座の実施となる。

また，定期的に，大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会による点検が行われ，その結果を基に大学院総合社会情報研究科内部質保証推進委員会で検証を受けるというサイクルが確立されている。

なお，これまで大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会及び大学院総合社会情報研究科内部質保証推進委員会による点検・評価・検証において，特に指摘事項はない。これは，各組織が日頃から点検・評価・検証を行い，必要な改善を実行している成果と言える。

具体的な改善・向上を図った事例としては，大学院総合社会情報研究科分科委員会では，知識や情報を広く社会に還元し，また社会人が学ぶことができる通信制大学院の存在をより広く周知することを目的に，公開講座の実施方法について点検を行った。その結果，オンライン開講からオンデマンド開講に変更し，より柔軟で参加しやすい形式へと改善を図った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし